

2025年1月7日

報道関係各位

GMO インターネットグループ

**GMO インターネットグループ、生成 AI 業務活用率が 88.6%に！
自社提供の生成 AI 検索「天秤 AI byGMO」の業務利用率が、
「ChatGPT Search」に次ぐ利用率**

～「生成 AI 検索」など新たな活用方法にも対応し、業務時間削減から価値創造へ～

“すべての人にインターネット”をコーポレートキャッチに、インターネットインフラ、広告、金融、暗号資産事業を展開する GMO インターネットグループ（グループ代表：熊谷 正寿）は、「AI で未来を創る No.1 企業グループへ」を掲げ、グループをあげた生成 AI の活用・業務効率化の取り組みを進めています。

その結果、グループ全体の**生成 AI 活用率は 88.6%**に到達し、**2024 年の合計業務削減時間は推定 150 万時間**を超えました。^(※1)^(※2)^(※3) さらに、業務効率化や時間削減にとどまらない「生成 AI による新たな価値創造」に取り組むフェーズに入ったことも調査から見えてきました。

■ 調査サマリ

- ・ 2024 年 12 月時点で全体の**生成 AI 活用率は 88.6%**（前回調査差+1.8 ポイント）
- ・ 2024 年の合計**削減時間は推定 151 万時間**
- ・ 半数以上のパートナー（従業員）が**生成 AI 検索を活用**
- ・ 自社提供の生成 AI 検索「**天秤 AI byGMO**」の業務利用率が、**「ChatGPT Search」(34.7%) に次ぐ 21.4%の利用率** (<https://tenbin.ai/>)
- ・ 既存の活用方法にとらわれず、生成 AI のアップデートに合わせた新たな活用方法を取り入れ、業務効率化と**価値創造を推進**していることが推測される
- ・ 「生成 AI を使いこなせている」と感じる理想像として、単なる情報のアップデートや利用頻度の高さではなく、目的に応じて価値を生み出す活用が求められていることが明確化した

生成 AI 88.6%
業務活用率

国内パートナー(従業員)を対象とした生成AI活用の実態調査を実施

■調査概要

- ・ 調査テーマ：「生成 AI 活用」実態調査
- ・ 回答者数：6,370 人（有効回答 5,136 人）
- ・ 調査対象：GMO インターネットグループの国内パートナー（正社員、契約社員、アルバイト、派遣社員、業務委託）
- ・ 調査期間：2024 年 12 月 9 日（月）～12 月 13 日（金）

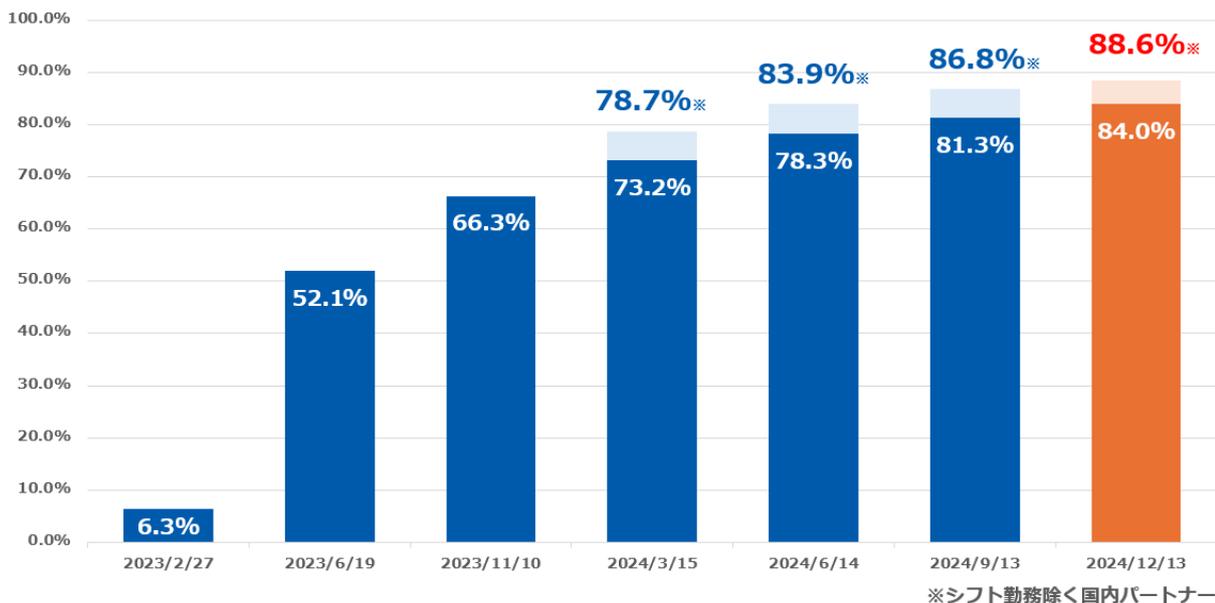
- (※1) 国内全パートナーの約 84.0%にあたる 5,351 人が生成 AI を活用していると仮定し算出。
(※2) ひと月労働時間は（1 日の勤務時間 8 時間）×（平均の営業日 20 日）=160 時間で算出。
(※3) 2023 年 11 月 20 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8680/>
2024 年 4 月 9 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/8922/>
2024 年 7 月 5 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9051/>
2024 年 10 月 9 日 定点調査 <https://www.gmo.jp/news/article/9185/>

【GMO インターネットグループの生成 AI 活用調査結果】

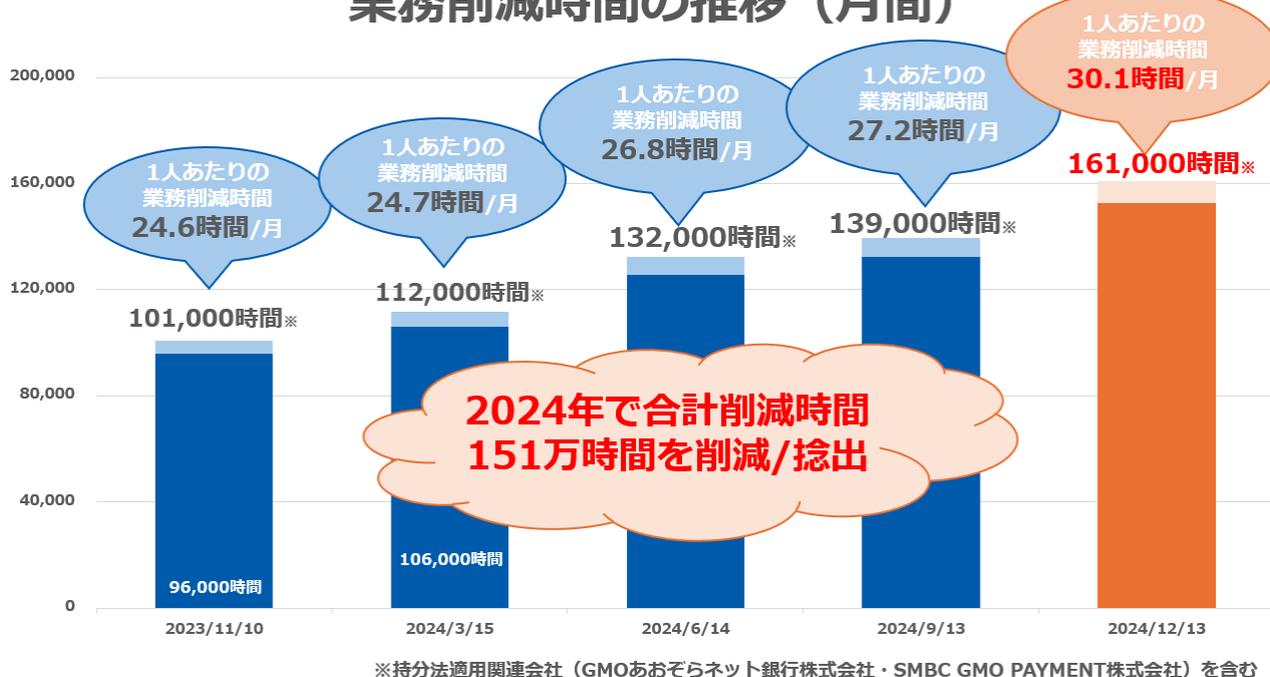
①生成 AI 活用により 2024 年の合計削減時間 150 万時間を突破

- ・ 国内パートナー（シフト勤務除く）の 88.6%が生成 AI を活用（前回調査差+1.8 ポイント）。
- ・ 生成 AI を活用しているパートナー一人あたりの業務削減時間は **30.1 時間/月（前回調査差+2.9 時間）** となり、パートナー一人ひとりが、最新の AI ツールをキャッチアップし適切な業務で活用を進めていることが推測できる回答結果となりました。
- ・ また、生成 AI を活用しているパートナーの合計により、ひと月あたり **約 16 万 1,000 時間/月（前回調査差+約 2 万 1,631 時間）** の削減を実現しました。
- ・ 生成 AI を業務に活用する者の割合が 80%を超えて以降も削減時間は増加し続けており、結果として 2024 年は **年間推定 151 万時間の業務時間削減** を実現しました。

生成AI業務活用率



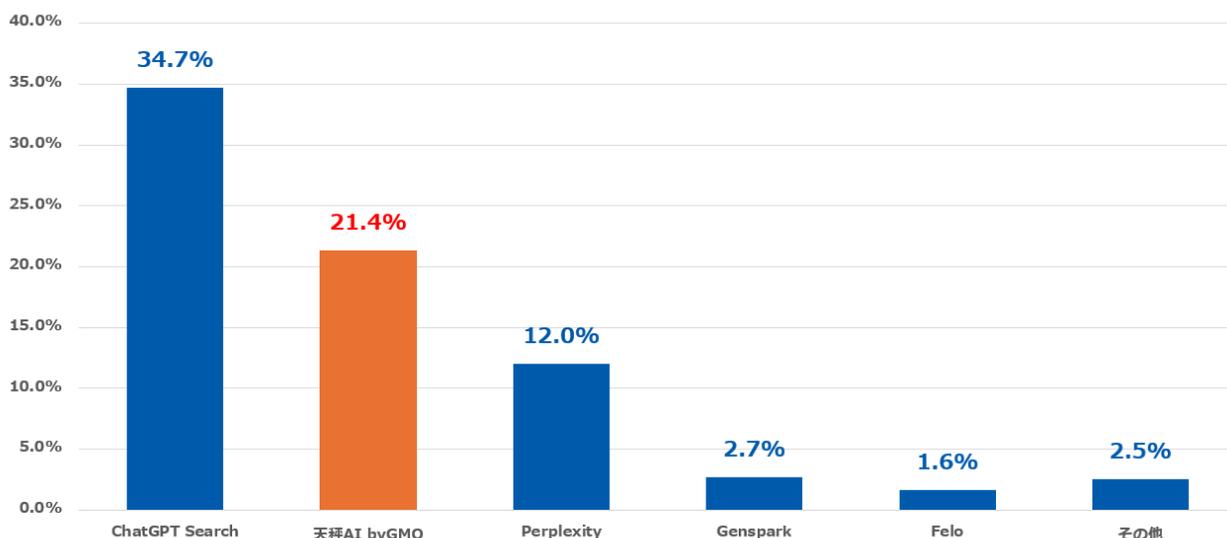
業務削減時間の推移（月間）



②トレンドでもある「生成 AI 検索」を業務に活用。「天秤 AI byGMO」の利用が進む

- AI の業務活用を行うパートナーに対し、生成 AI 検索の利用について質問したところ、過半数の **57.2%**が「**生成 AI 検索を利用している**」と回答しました。
- ChatGPT 登場時には検索には不向きであるといわれた生成 AI ですが、直近ではその検索精度も飛躍的に向上しました。グループパートナーもその進化に追随していることがわかります。
- 利用している生成 AI 検索サービスとして最も多かったのは「**ChatGPT Search**」で **34.7%**、次いで GMO インターネットグループのサービスである「**天秤 AI byGMO**」が **21.4%**、
(<https://tenbin.ai/>) そして生成 AI 検索の元祖「**Perplexity**」が **12.0%**と続きました。
- 生成 AI 検索により、多様な情報をより効率的に収集できるようになった一方で、その信憑性については注意を払いながら活用しているという意見が目立ちました。

利用している生成AI検索サービス



※対象：生成AIを業務活用しているパートナー

■パートナーのコメント

<「生成 AI 検索」の利用はどのようなメリットがありますか？また、どの様な用途に使っていますか？>

- ・ **情報収集のスピード**：「生成 AI 検索は質問をしながら絞り込むことができるので、必要な情報を速やかに正確に得ることができます。特に、旅行先を決定する際に条件を追加しながら検索するのが便利でした。」
- ・ **多角的な回答の比較**：「複数の AI からの回答を比較することができるので、内容の正確性をチェックしやすく、とても参考になります。」
- ・ **アイデア生成**：「生成 AI を使って、アイデア出しやブレインストーミングが非常にスムーズになります。普段思いつかないような新しい提案や、異なる角度からのアプローチが可能になり、クリエイティブな作業がより豊かになりました。」
- ・ **法的・専門的情報の検索**：「海外の税法を調べる際、生成 AI 検索を利用することで大まかな方向性を得られ、大幅に時間を節約できました。」

③理想像は生成 AI を活用して「新たな価値」を生み出せる人

- ・ 「生成 AI を使いこなしている」と考える理想像についての質問では、「**AI の最新情報を日々キャッチアップしている人**」や「**進化する AI ツールを試している人**」といった回答が挙がりました。
- ・ 一方で、「目的に応じて AI を活用し生産性を向上させる人」や「AI と共創して新たな価値を生み出す人」といった、**価値創造を重視する回答**も多く見られました。
- ・ この結果から、GMO インターネットグループが生成 AI を活用した価値創造のフェーズに進んでいることが示唆されています。

■パートナーのコメント

<あなたにとって、生成 AI を使いこなしているなと思う人はどんな人ですか？>

- ・ **生産性向上**：「労働時間を変えずに生成 AI を取り入れ、生産性を大幅に向上させている人を見て、理想的な使い方だと感じました。」
- ・ **価値創造**：「生成 AI を用いて業務効率を上げるだけでなく、そこから生まれたリソースで新しい価値を生み出し利益を出している人が印象的です。」
- ・ **AI の特性を最大限に活用**：「『これをやるならこの生成 AI サービス』と、サービスごとの得手不得手を理解し、強みを引き出して使いこなしている人がいると感じます。」
- ・ **専門知識と AI の融合**：「例えば、弁護士のように本来の知識や引き出しが豊富で、それを補強する形で AI を自分のパートナーとして活用している人が印象的です。」
- ・ **スピード感**：「ChatGPT などを使い、求める回答に最短でたどり着けるスキルを持った人が際立っています。」

■GMO インターネットグループ、新たな価値創造を実現へ

GMO インターネットグループでは、削減した業務時間を活用し、新たな価値創造を実現する取り組みを進めています。その一環として、2024 年 12 月に、社内ナレッジを最大限に活用できる独自 AI ツールの提供を開始しました。

本ツールは、熊谷正寿の思考やフィロソフィーと GMO インターネットグループのカルチャーが集約・言語化された「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”となります。Claude をベースにしたこの本ツールは「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして、パートナーの意思決定をサポートし、さらなる効率化と価値創造を推進します。詳細については以下をご覧ください。

- ご参考：<https://www.gmo.jp/news/article/9305/>

【グループ内 AI 推進プロジェクト「AI しあおうぜ！」リーダー 李 奨培 (り じゃんべ) コメント】

AI 活用率が 8 割を超えてもなお、グループ内での AI 活用が広がり続けていることは素直に嬉しく思います。「AI 熊谷正寿」実現に向けた一歩として先日リリースした、いつでも誰でも GMO イズムに基づくアドバイスをもらえる独自 AI ツールも、多くのパートナーにご活用いただけるよう願っています。AGI の実現が間近に迫っていると強く感じておりますので、今後も先端技術のキャッチアップを怠ることなく、来年のテーマである「削減から価値創造」に貢献できるよう、引き続き日々努力を重ねてまいります。



【GMO インターネットグループについて】

GMO インターネットグループは、ドメインからセキュリティ、決済までビジネスの基盤となるサービスをご提供するインターネットインフラ事業を軸に、インターネット広告・メディア事業、インターネット金融事業、暗号資産事業を展開する総合インターネットグループです。

また、「AI で未来を創る No. 1 企業グループへ」を掲げ、グループ全パートナーを挙げて生成 AI を活用することで、① 時間とコストの節約、② 既存サービスの質向上、③ AI 産業への新サービス提供を進めています。^(※4)

お客様に喜ばれるサービスを迅速かつ低価格で提供するために、サービスは機器の選定から設置、構築、開発、運用までを内製化することを基本方針としています。そのため、グループ 110 社以上に在籍する約 7,500 名のパートナーのうち、IT のモノづくりを担う開発者（エンジニア・クリエイター）が 50% を超えています。（2024 年 9 月末時点）

(※4) 参考 URL 「AI で未来を創る No.1 企業グループ」実現への取り組み <https://www.gmo.jp/ai-history/>

GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例については別紙に記載しております。

以上

【報道関係お問い合わせ先】

●GMO インターネットグループ株式会社

グループ広報部 PR チーム 山崎

TEL : 03-5456-2695

お問い合わせフォーム : <https://www.gmo.jp/contact/press-inquiries/>

【GMO インターネットグループ株式会社】(URL : <https://www.gmo.jp/>)

会社名	GMO インターネットグループ株式会社 (東証プライム市場 証券コード : 9449)	
所在地	東京都渋谷区桜丘町 26 番 1 号 セルリアンタワー	
代表者	代表取締役グループ代表 熊谷 正寿	
事業内容	■インターネットインフラ事業 ■インターネット金融事業	■インターネット広告・メディア事業 ■暗号資産事業
資本金	50 億円	

Copyright (C) 2025 GMO Internet Group, Inc. All Rights Reserved.

【別紙：GMO インターネットグループで実施する AI 活用促進の例】

■①時間とコストの節約

1. 2023年4月より賞金総額1,000万円の社内公募コンテスト「AI（愛）しあおうぜ！ChatGPT 業務活用コンテスト」を実施。AIに関する取り組みや新サービスへつながる作品が集まり、多くがサービス提供・実装しました。
2. AIに関する最新動向や最新ツールの理解を深める、専門家による「GMO AI セミナー」を定期開催しています。
3. AIに関するグループ内のポータルサイト「GMO Genius」を立ち上げ、プロンプトやGPTsの共有、その他情報共有等を行い、グループ内の「AI ナレッジ」の共有を図っています。
4. 非エンジニアを対象としたリスキリング施策として、社内の有識者が講師となり、3か月間の短期 AI 人材育成プログラム「虎の穴」を実施しています。
5. 全パートナー受験必須の AI テスト「GMO AI パスポート」を実施しています。また、中途採用における選考で AI に関する課題を実施しています。
6. Slack 上で使える「ChatGPT」等のアプリを提供し、情報が学習されないクローズドな環境で、有料ツールを利用できる環境を提供しています。
7. 2024年12月に、「AI 熊谷正寿」実現へのステップとして社内向け独自 AI ツールを提供開始しました。本ツールは「GMO イズム」を学習した“バーチャル知的ナビゲーター”です。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9305/>)

■②既存サービスの質向上

AI を活用し既存サービスへの機能追加による質の向上を測っています。生成 AI による文章や画像の生成等により、ドメイン、ホスティング、EC、広告、メディア、セキュリティ等幅広い領域でお客様にこれまで以上に利便性の高いサービスをご提供しています。詳しくはこちら (<https://www.gmo.jp/ai-history/>)

■③AI 産業への新サービス提供

AI 産業を盛り上げるべく AI スタートアップの支援を進めています。

1. 2023年5月に、ハンズオン型 CVC「GMO Web3 株式会社」を、「GMO AI&Web3 株式会社」へと社名変更し AI スタートアップ支援を拡大しています。すでに、有望な AI スタートアップへの支援を実施しています。
2. NVIDIA 社の GPU「NVIDIA H100 Tensor コア GPU」「NVIDIA L4 Tensor コア GPU」を搭載した AI 開発者向けの GPU ホスティングサービスを開始しました。(<https://www.gmo.jp/news/article/8677/>)
(https://ir.gmo.jp/pdf/irlibrary/gmo_disclose_info20240213_06.pdf)
3. AI 専門家とともに「GMO 教えて AI 株式会社」を設立し、生成 AI プロンプトポータルサイト「教えて AI」を開始しました。(<https://oshiete.ai/>)
4. 2024年6月に、GMO AI&ロボティクス商事株式会社（通称 GMO AIR）を設立し、AI とロボット・ドローンの導入・活用支援を軸とした新たな事業を開始しました。(<https://www.gmo.jp/news/article/9010/>)
5. 2024年11月に、「NVIDIA H200 Tensor コア GPU」と「NVIDIA Spectrum-X」イーサネット ネットワーキング プラットフォームを採用した「GMO GPU クラウド」の提供を開始しました。
(<https://www.gmo.jp/news/article/9271/>)